



社会科学研究部報

令和5年 5月 9日
浜松市教育研究会 社会科学研究部

令和5年度 社会科学研究部 主任者会

4月13日(木)に可美公園総合センターにて、今年度の研究の概要や組織について確認し、令和5年度の社会科学研究部のスタートが切られました。

1 顧問校長あいさつ

昨年度はコロナ禍の中でしたが、研究授業をオンラインやオンデマンドで開催するなどして、予定通りに研修を行うことができた。今年度は、新型コロナが5類に移行することが決まった。活動方法を今後も検討する必要性はあるが、例年の活動に戻していけるよう努力したい。また、新たな専門部である「臨地研修部」を設置する。

社会科は、理科とともに問題解決型の教科である。理科(自然科学)の対象が地球や宇宙で起こる科学的な事象であるのに対し、社会科(社会科学)の対象は、「人」が関わる事象である。激動の世界情勢の中で、人々が歴史から学ぶことが求められている。今年度も、各校の社会科実践が発展していくことを願う。



2 令和5年度研究部長・副部長選出



部 長	可美小学校	教諭
副部長	初生小学校	教諭
	麩玉小学校	教諭
	村櫛小学校	教諭
	葵西小学校	教諭

会場の先生方の御承認を受け、令和5年度の研究部長・副部長が選出されました。

3 令和5年度研究主題

令和5年度の研究主題は、昨年度に引き続いて「意欲的に社会的事象を追究し、未来を問いつける児童を育てる社会科学習」とする。社会科は、日々変化する社会情勢に合わせて、扱う事象を変化させる必要のある教科である。自分自身で問いを持ち続け、主体的に問題解決しようとする力を付けることは、予測困難な社会を生き抜くために必要不可欠である。そのために

教師は、どんな「問い」で何に注目させるのか、社会的
事象の様子や仕組みなどを捉えられるように授業を組
み立てる必要がある。位置や空間的な広がり、時期や
時間の経過、事象や人々の相互の関係などに着目して、
社会的事象をとらえ、比較・分類したり総合したり、
地域の人や国民の生活と関連付けたりして、社会的な
見方・考え方を働かせながら、社会的事象を様々な視
点で見ることができる問題提起が必要である。

また、本年度の研修会のもう一つの目的を「明日の
授業に生かせる」とする。平成24年・25年度に行
われた、小学校学習指導要領実施状況調査から、児童にとって社会科は、「役立つ教科ではあ
るが、あまり好きではない」ことが読み取ることができる。「主体的・対話的で深い学び」の
視点に立った授業改善を目指し、子供たちが楽しむことのできるような授業づくりが求められ
ている。様々な知識や経験をもち、幅広い年代の人材で構成されている本研究部の活動が「現
場の先生の、現場の先生による、現場の先生のための研修会」となることを願っている。



4 年間事業計画

<第1回研修会>

- 日 時 令和5年5月24日(水)
会 場 浜松市雄踏文化センター
研修内容 ・本年度研修テーマの趣旨説明
・研究部の組織、研究内容、運営方針
・専門部会の概要説明

<第2回研修会>

- 日 時 令和5年8月1日(火)
会 場 クリエイト浜松
研修内容【午前の部】
・臨地研修
【午後の部】
・実践発表
・講演会
・分科会

<第3回研修会>

- 日 時 令和5年10月25日(水)
会 場 市内小学校3校(与進小学校・初生小学校・光明小学校)
研修内容 ・研究授業
・研究協議

5 専門部の活動

授業研究部では、実践力向上を目指して第3回市教研に向けた指導案検討及び運営準備や当
日の運営をする。意見交換を通して社会科主任の力量向上を図っていく。

教材研究部では、本年度「すぐ使える」教材、「明日の授業に役立つ」教材を広めていく。
教科書や地図帳の使い方を今一度再確認し、「教材を使える」教員を増やしていく。

社会科自由研究部では、児童が自由研究に意欲的に取り組めるよう、テンプレートの改訂や
評価基準を見直していく。また、審査会・博物館審査を通して、社会科好きの児童を増やすこ
とと、教員の資質向上を目指す。

本年度から臨地研修部を設ける。第2回研修会臨地研修に向けた運営企画を行う。社会科の
授業づくりに関する知識や技術、考え方などを高める。臨地研修を通じて、社会科の指導力向
上を目指していく。